

■ 令和2年度川崎市教科用図書選定審議会各教科別意見等一覧

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
国語	<ul style="list-style-type: none"> ● 言語活動のポイントが示されているものや、イラストでわかりやすく説明が見られ、それぞれ使いやすい工夫がある。 ● 学習のそれぞれの場面で効果的に使えるよう、学び方が整理されているものがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学びの手引きについて、家庭学習を促す上でも選定のポイントになる。掲載の場所や示し方など、より子どもたちの学びに効果的なものがよい。 ● 二次元コードも同様に選定の重要なポイントになる。各社とも工夫して違いがあるので、これからの時代の学びに活かせるものがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新出漢字をわかりやすく示したほうがよい。 ● 色使いの示し方について、分野ごとにわけたり、学年ごとにわけたり、単元でわけたりというような工夫がポイントになる。 ● 読解力が求められると同時に、表現力を高めていくということも必要になってくる中で、様々な表現が記載されているものがよい。
書写	<ul style="list-style-type: none"> ● 各社に手紙や葉書の書き方などを説明したページがあり、学習を生活に活かそうとする工夫がある。 ● 点画の特徴をわかりやすく示す工夫が各社に見られ、考えながら文字を書くときに生かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● お手本の字形や大きさに各社違いがある。実際に子どもたちが書く時の使いやすさを考慮することが必要。 ● 限られた時数の中で効果的に学習をするためにも、国語の学習や生活に生きるように工夫されている社が望ましい。 ● 文字を書く要点の示し方についても各社違いがあり、選定については大事になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文字を整えて書くこと、それを様々な場面で使うこと、その両方がバランスよくあるものがよい。
(地理的分野) 社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 多文化共生、防災などが話題となった。 ● 各社とも地理事象をとらえるだけでなく、生徒に考えさせる工夫が見られる。 ● コラムや資料等も、現代的な諸課題のもので興味を持たせやすい。 ● まとめや振り返りのページでは、知識理解を確認してから、自分の言葉で表現できるような構成になっているものが話題となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ルビふり、単元のまとめ方、学習課題の提示の仕方、資料の読取の仕方等の取扱が社によって差があり、選定のポイントになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図の読みやすさ、写真の読みやすさ、グラフ、資料の見やすさがポイントの一つ。 ● 情報が多い部分があるが、二次元コード等を活用しながら、情報を整理した形のものがよい。
(歴史的分野) 社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 各社とも、巻末の歴史年表やページごとのスケールが示され、自分たちがどの場面を学習しているのかがわかるような工夫がある。 ● ただ覚えるだけでは苦手になりがちな歴史学習も、流れや繋がりをとらえることで、面白さが増す。 ● 立場によって様々な見方や考え方がるので、歴史の教科書としては、事実を伝え、子どもたちが判断していけるものがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事例地として川崎市が使われている方がよいのではないか。 ● 多面的、多角的に思考を育成することを重視しているところが見られ、シンキングツールを取り入れている社が多い。 ● 二次元コードについては、子どもたちが調べたいという学習意欲を支えるものとして大切になってくるので、家庭学習と繋がるものがよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 時代の示し方について、各ページに書かれているものや、巻末にあるものがあるが、わかりやすいほうがよい。 ● 絵、イラスト、文字の大きさなど、見やすくする工夫が必要になってくる。 ● 二次元コードの掲載について、扱い方の工夫をしていく必要がある。 ● 事実内容の取り上げ方について、色々な立場、事実を取り上げて、自分事としてとらえたり、未来について考えたりできるようなものを活用していくことがよい。
(公民的分野) 社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 考える場面や活動が掲載されているが、自分事として捉えるために、身近な物や、分かりやすいものがよい。 ● 公民という教科の特性を考えると、社会の仕組みを学びながら考えることができることが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事例地として川崎市が予想以上に使われている。 ● 課題解決までの流れが見開きになっていて、一時間で授業を進めやすくしているという工夫がみられる。 ● 社会参画について子どもたちが話し合いをする場面もあるが、その具体例が豊富な方がよい。その具体例についても子どもたちにとって取り組みやすい例がよいのではないか。 ● 学習の振り返りの仕方に各社工夫があり選定のポイントになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分事としてとらえるという視点から、キャラクターを登場させていたり、問いを立てて解決する構成にしたりしているのがよい。 ● 男女平等など人権についてのこと、SDGsにかかわることを扱っているものがよい。 ● まんべんなく事実を載せて、そこから自分で調べたり考えたりして、社会と結びつけて考えるものが表れているものがよい。
地図	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料の活用や二次元コードについて話題となった。 ● 使いやすいものがよい。色の差など。 ● ページごとに投げかけや着目すべきポイントが示されているものがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鳥瞰図、防災についての扱い、色づかい、地図の見る視点や活用の仕方等の取扱が社によって違いがあり、選定のポイントになる。 ● 地理の授業で使うだけでなく、歴史や公民、他の教科、あるいは修学旅行でも使えるような地図が使いやすいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大きい方が見やすい。 ● 色使いについてもそれぞれ工夫があるが、その特徴を見ていくのがポイントになる。 ● 鳥瞰図、主題図、白地図、立体地図、衛星写真、などなど、様々な地図が掲載されているところで、その使う目的等にあわせて見ていくのがポイントの一つになる。

■ 令和2年度川崎市教科用図書選定審議会各教科別意見等一覧

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
数学	<ul style="list-style-type: none"> ● どの社も日常の事、学校生活に結び付けられるような工夫がなされていた。 ● 吹き出しや、自分の論を組み立てていく説明がある工夫、そういった社も見られる。 ● 難易度等が数学にはあるため、段階を意識して、標準的なものをとらえるほうが取り組みやすいという意見があり、そういったものを扱っている社もあった。 ● どの社も話し合い活動を取り扱っているものが多く、同じ課題でも、どうやって話し合い活動を進めていくのかということに違いをもたせている、対話式であったり、キャラクターを使っていたりして工夫されている。 ● 二次元コードを今年度よりどの社も扱っているが、学校がそれをどのように効果的に使っていくのが課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 対話的な活動というところが、主体的な活動ととらえるのか、思考ととらえるのかというところで、それぞれの社の工夫が見られた。 ● 二次元コードを多数活用されており、各社によって、二次元コードからどのような情報が得られるのかが比較され工夫がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前から読めたり、後ろから読めたりと両側から見られるという工夫がされている社があり関心する。 ● 各単元導入前に復習のページがあったり、物語や絵、最初の間など、最初の導入で自分の身近な物であれば、どんどん興味が湧いていく。日常生活とリンクさせたりするなど、最初の導入についての工夫がどの社もみられる。 ● 補充問題はここにあります、発展問題はここですと、子どもたちのペースにあわせて、わかりやすくページ数が書いてあったり、関連したページが示されているところに工夫が見られる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ● 最初のページで何を学ぼうかを示している工夫が非常に多い。 ● 実験の方法については写真で示している社もあれば、絵で示している社もあり工夫されている。 ● 何でこの実験をやっているのだろうかという、その意味について、徐々に課題意識を持たせるような工夫がどの社も示されており、考え方で学びを深めていく工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 章の構成だてが各社によって違いが見られる。 ● 二次元コードの扱いについても、ここから得られる情報も、各社によって工夫の違いが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 探究の過程の示し方について、各社、様々な表記の工夫みられる。 ● キャラクターが多数出てきており、色々なヒントも書いてはあるが、直接的な答えは表記しないほうがいい。 ● つい計算でつまづいてしまっということもよく聞く話であり、例題をのせて、計算式ができるだけやりやすくできるような工夫をしてもらいたい。
(一般) 音楽	<ul style="list-style-type: none"> ● 身に付けたい力を明確にして学習を進めていくことが大切であり、各社、共通事項を各ページや巻頭に示しているが、各ページに示されている方が使いやすいのではないかと。 ● イラストや写真が効果的である。 ● 子どもたちの学ぶ意欲につながるものも多く示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 二次元コードの内容の違いも選定のポイントとなり、授業でどのように使うかというところも踏まえて考えていくとよい。 ● 音楽を形づくっていく要素の捉え方について社によって違いがあり選定のポイントになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 共通事項の示し方について、子どもにも教師にもわかりやすく載せられているとよい。 ● 二次元コードについて、家庭学習での活用の仕方や、学校の授業の中での活用方法について工夫していくことが必要。
(器楽) 音楽(奏)	<ul style="list-style-type: none"> ● 和楽器を取り扱うページが話題となった。 ● 写真や解説が充実しており日本文化への意識が高まる。 ● 二次元コードの示し方について、社によっては、資料的な要素が多いものと、実際に音を聴くことができるものとの違いがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンサンブルが出てくる箇所の違いがあり、選定のポイントになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 和楽器の取組状況について話題となったが、楽器の歴史や弾き方を写真で掲示しているなどの工夫があると良い。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ● 他教科とのつながりというのが非常に多く、生活の中で、教科の枠を超えたようなもの、様々な分野に繋がりがあ、幅広い中で、身の回りの中にあるものから入っていく、そこが一つの特徴ではないか。 ● 情報のページ等で問題解決が難しいというところもあり、小学校をとおして、どのように学んで、どこまでやっていくのか、はたして小学校でどこまでやって、中学校でしめしていくのか、非常にむづかしい。 ● 丁寧に部品の一覧を写真で示している社もあり、基礎・基本の中から示していくという特徴がみられた。 ● 例えば自画像の課題についても、どの社でも扱っているが、各人の、生徒の気持ちの持ち方について、内面的なものについて工夫した内容を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 制作のための造形的な視点、見方、感じ方を重視した工夫が各社にみられる。 ● 分量や想定の違いによって、各社の考え方等が明らかになっている。 ● 他教科との繋がりというところで、本文の中で示していたり、脚注で示していたり、各社によって工夫がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の目標について、表現と鑑賞の目標、2つの柱に別れているものと、3つの柱に沿っている社がある。 ● 2年生と3年生をまとめている社と、各学年の違いについても話題となった。若干分厚くはなるものの、作品が多い方が多様な芸術に触れられるのでよい。 ● 日本の伝統色についてのページが各社あるが、このページについては、日本古来のものであるため、是非大切に扱っていただきたい。

■ 令和2年度川崎市教科用図書選定審議会各教科別意見等一覧

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ● どの社も、実生活に生かすという視点で見ると、自分事としてとらえて、あなたならどうしますかという投げかけをしているような社もあった。 ● 自分の生活を生かすことが大切で、AEDや心肺蘇生の仕方等を流れを示しながら写真で表している社もある。 ● メンタルのもの、心の相談窓口が特化した内容のものが、全ての社にあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 二次元コードを活用している社が多く、コードからどのような情報が得られるのか、オリジナルのデータと繋がっていたり、あるいは外部リンクと繋がっていたり、各社によって工夫が見られた。 ● 文章表現の中で、改行のタイミングについて、各社で工夫している。 ● ルビの振り方も、各社によって工夫が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各社学習のまとめについては、とても工夫がされているが、直接書き込めた方がよいのではないかと。 ● 各単元や色々なところに、トピックスや豆知識のようなもの、こういったものは子どもたちの興味関心を引いてよいのではないかと。 ● 二次元コードについて、これから一人一台にタブレットが配られたり、グループ活動が増えてきたときに、そこで動画が見られて、個人的な学習、それからグループの学習にとっても役に立つのではないかと。
技術・家庭 (技術分野)	<ul style="list-style-type: none"> ● つめ見出し、題材面、サブタイトルという形で、どの社も工夫をして、読みやすい内容で示している。 ● どの社も制作の変遷を出して、その過程を写真で示していたりしている工夫がみられる。 ● 見開きのページで資料の写真を示しており、迫力のある内容で工夫されている。 ● 資料に近い活用もあるので、学校の実態にあわせていくことが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 制作のための問題解決の発想というところで各社工夫が見られる。 ● 解決策を重視しているという点でも工夫が見られる。 ● 問題解決の最終的な振り返りやまとめも各社によって違いが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 近年出てきているプログラミングも話題となったが、技術と家庭科で、同じ社、同じ仕様になっていた方が使いやすいのではないかと。
技術家庭 (家庭分野)	<ul style="list-style-type: none"> ● 調理実習等、関心の高いところのページに各社工夫が見られ、基本的・基礎的な技能を確かめるように丁寧に示している。 ● 課題の持たせ方について、今日的な課題の問題意識から、どのように取り扱っていくかという工夫をされていておもしろい。 ● 写真やイラスト等も多く、内容的には豊富な社が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● かわさき教育プランに関連した幼児と高齢者を含む地域についての表記は、それぞれ分けたほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品や材料の写真が多く食材の表示の仕方もとても工夫されていました。 ● 失敗例が載っている社もあり、とてもわかりやすい。 ● 四季のある日本であり、季節の食が載っているのがとてもよい。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ● 小中の接続について、敷居を低くしてスムーズな移行が大切。 ● 中学1年では、小学校で習ったものを反復させながら定着させていくことが大切であり、そのためにも言語活動が身近な事から始めることがよい。 ● 小中の接続も踏まえて、題材が学校生活や自分たちの日常から段々に広がりを見せていくのがよい。 ● 日常使えるような言語活動が設定されているものがよい。 ● 習ったことが使えるようになることが大切であり、巻末にキャンドゥリストを提示している工夫も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校で学んだことを活かす部分がどんなところかを見ていくのも、選定のポイントになる。 ● 言語活動について、実際のコミュニケーションの場で使われるような活動が入っているものがよい。 ● 英語という教科は音声がないと取り組めない教科であることから、二次元コードの内容がどのようなものになっているのか、音声があるものになっているのか、内容まで確認したほうがよい。 ● 帯活動ができるようなつくりになっている社もみられ、そのあたりも選定のポイントになる。 ● 文字の表記について、中学校1年生の子どもたちが学びやすいように、手書きの書体を使っている教科書もあり、そのあたりにも工夫が見られる。 ● 内容が高度化しており、これまでの中学校で行っていた授業とは違う形になっていくのではないだろうか。 ● 教科書に出てきているキャラクターに外国人や日本人がいる。社によっては世界の広がり方がかわってくるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● まとめの段階で文法の示し方があるとよい。 ● 情報が多すぎないほうがよい。 ● 実用的、実際に使える英語、そのために身近な題材設定があるとわかりやすい。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ● 読みもの道徳から考える道徳に繋がることが大切。 ● 学びのポイントを示すマークや、考え方を記述している工夫が多い。 ● 一方で、価値観を固定化してしまうものも見られる。 ● 生徒が多面的、多角的に考えられるものがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● いじめ問題については全ての社で扱っているが、扱い方について特徴がある社もあり、検討のポイントになる。 ● 教材のはじまるところで、内容項目に触れている社とそうでない社があり、最初に内容項目を知らせてから学習するのがよいのか、それとも、内容項目に触れずに学んだほうがよいのかという議論があった。 ● 振り返りのさせ方について、各社特徴ができてきているため、検討のポイントになるのではないかと。 ● 道徳ノートや振り返りの部分のノートの有無についても、使いやすさの部分で検討するポイントになるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ノートの使い方について、別冊式のもの、書き込み式のものがあり、それぞれの特徴を活かしたうえで使用していくことが必要。 ● 考えさせる内容項目として、特に命にかかわるものを重点的にとらえたほうがよい。 ● 何を学ぶかについて、現代的なものも含めて、様々な教材の提示の仕方がないとよい。

■ 令和2年度川崎市教科用図書選定審議会各教科別意見等一覧

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
全体を振り返って（意見・感想）	<p>● 二次元コードから色々な資料が見られる。もう一步進めばデジタル教科書になっていく。リモートとなると紙の教科書よりもデジタル教科書を使ってどうするか、それをどういうふうに精査していくのか、どういうのがよい教科書なのかとなると難しい。連携先のサイトがどうなっているのということはどう考えるか。デジタル教科書になると、いくらでも広がっていくため、どういう授業にしていっていいか考えていかなければならない。</p> <p>● 指導主事に視点を示して頂いてとても効果的であった。二次元コードがどの教科書にも入ってきている。それをどう授業の中で活用していくか。そのためにはどういう情報環境を整えていかなければいけないか。教育がどんどん変わっていくのを教科書を見ながら感じた。</p> <p>● 子どもたちが学びに関心をどのようにもって行くのか、そこで学んだことをどうやって自分の言葉で語れるようになっていくのか、表現できるようになるのかということも大切にしていきたいということを感じた。</p> <p>● GIGAスクール構想により1人1台の端末が配られる。それに合わせた授業をつくっていかなければならないとなった時に、教科書自体が、コロナの前に検定されてる教科書なので、学校だけの力でそれが準備できているかという、なかなかそうでもない部分もあり、教科書にもできる限りそういったことを求めていければと考えている。また、ここ数年の風水害がすごく、防災の面等が触れられている教科書があるとよいと感じる。</p> <p>● 多くの教科書が、考えを出し合って、話し合ったり、そして共同的に解決するような、今まさに川崎が大切にしている学習活動、そういうものが具体化するようなものだと感じている。一つのキーワードが、多面的、多角的と感じたが、やはり多様な考えが表れるような展開が必要で、そういう教科書のつくりがよい。また、それは授業の中だけではなく、学習後も、多面的、多角的に物事を考えられるような力が身につくような教科書がよい。一つの考えに収束してしまうのではなく、様々な場面に出会ったときに、いろんな考えをもつことができ、いろんな考えを認めることができ、そんな教科書がよい。社会に出れば、家庭科の学習であれば消費者のことであるとか、理科では環境のことであるとか、社会では主権者のことであるとか、18歳選挙権であるとか、政治年齢の引き下げということを見ると、自分自身で多面的、多角的に主な事を考えて、判断して行動できるようになると、そのための力をつけられるような、多様な考えを引き出して、認めることができるような、バランス感覚の取れたそんな教科書がよい。</p> <p>● 中学校は川崎市として育てたい子が各学年1万人位いますが、その1万人という大きな生徒を対象として、かわさき教育プラン、それから各教科書の特徴等を照らし合わせて、また、現場の先生方の御意見を参考にして幅広い生徒にどう対応するかということで、選ぶのも大変と思います。中学校の教科書は非常に、思考・判断・表現、考えさせる、話し合わせる、そして自分を表現させる、そういったものが各教科書にとりこまれていた。</p> <p>● どの教科書も非常によく作りこまれていおり、報告書も教科書の特徴的なところを選んで書いていただいている。</p> <p>● 臨時休業の期間が長く続いたことの一つが、子どもたちにとって教科書がどれほど重要な物かということを感じた。手引きとして教科書がどうであるとか、家庭で使えるICTの活用といったところが、こういった視点でどうだろうかと考えた。教員の立場で見ると授業時数の変更等さまざまな計画の変更であるとか、そういったことにもなっていた。そんな時に教材や、それまで様々に研究が積み重なってきたことが、助けになっていたかなという気がする。これから新しい教科書を選んでいただくにあたって、これまで中学校の時の先生方が、それぞれの各教科等で蓄積されてきた様々な研究の成果物といったようなものも活かしていくというのも一つの視点になると思う。いろんな教科書を見てきたが、ほんとによくできており、遜色がないといえば遜色がない、また、特色があるといえば特色があるといったように見てきて、あまり違いがそれほど大きくないのであれば、現行の教科書の安心感というか、視野に入れて選んでいただくというのも、これまでの研究成果を活かしていくということが、もしかしたら質の高い授業を保障していくという意味で、一つの視点になるのかなと思う。</p> <p>● 自分たちが使っていた教科書よりもカラーや写真であったり、詰め込み式ではない教科書が楽しいと感じた。詰め込み式ではないので、今学んだことが大人になって知恵となって出てくればよいと思う。多くの方が子どもたちのために関わっていただいているということで、親としては楽しく学ぶ環境を整えてあげたい。</p> <p>● 全ての教科がそれぞれ少しずつからみあって、色々な面から身近なことを考えていかなければいけない時代になったと実感した。子どもたちが身近な事を自分の事柄として考える力をつけていってもらえたら嬉しい。少しでもそういう力になれば嬉しい。</p> <p>● 写真が多くキャラクターもいて、ワクワクするような教科書がたくさんある。勉強ができる子だけではなく、楽しんで授業が受けれるような工夫を先生方もされて、楽しい授業にしていっていただけると思った。</p> <p>● 今の教科書は子どもたちが興味を引くようなことに重点をおかれていて、我々のころの読み物みたいな、そういう教科書とは違ったような感想を受けている。</p> <p>● どの教科書も様々な工夫をしながら、子どもたちにとってわかりやすく工夫されて作られていた。そういう中で、川崎の教育として、どういう教科書がふさわしいのかという思いを持ちながら、一通り教科書を見た。本市の特徴的なこととして、若い先生が多いという事情もあり、例えばベテランの先生であればどのような教科書でもうまく自分のプログラムにあわせて料理できるというところがあるが、若手の先生で、例えば初任の先生や2年目、3年目という状況が多いとなると、やはり教科書もそんなに奇をてらったものではなく、スタンダードなもの、平均的なものが個人差が出なくて取り組めるのかなという感想をもった。また、文科省からもICTの端末がマストアイテムでスタンダードになっていくという話もあり、これからオンライン教育もどんどん進んでいくという背景がある中でも、やはり学校の中では、話し合うような対面の授業や、子どもたちの児童生徒同士の関わり合いの中で育っていくことが大事であると感じた。</p>		

■ 令和2年度川崎市教科用図書選定審議会各教科別意見等一覧

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 国語の教科書では言語活動を充実するという教科書が適切に採択されているのではないか。 ● 高校の教科書は、出版が古いということもあり、二次元コードが少ない気がする。来年度から新しいリベラル使用の教科書になるのでそちらでは二次元コードが増えてくると期待する。 ● 情報の教科書も出版が平成28年度とかなり古いので、内容も古い気がする。情報モラルを掲げている学校もあるが、この教科書ではなかなか厳しいのではないか。これも次回の改定で日々更新されていくようなことを期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の実態に応じた形で目標等が設定されているが、基礎・基本というところから、もう少し発展したところにもっていければよいのではないか。 ● ユニバーサルデザインが高校、大学に生きている。 ● デジタル教科書等が今後、特に高校等で考えられていくが、生徒が使いやすいものが採択されていけばよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校の教科書はすごくカラフルで、絵や写真が多くて、わかりやすいものが多くてよい。 ● 例えば古典の教科書であれば、いつの時代なのかということが、教科書の上のほうに年表と併せて提示されたり、数字のページだけでなく、見出しとしてページの横に単元の数字や関連しているものが表記してあるので、授業の中でどこを開くときも扱いやすい。 ● 英語の教科書については、出版社によって差があるかもしれない。英語が嫌いな子については、抵抗感があるかなという内容のものもあった。 ● 今使っている教科書は平成26年度のものなので、令和に向けては変わってくる可能性があるというところを聞いていた。ただあえて二次元コードを載せなくても、自分で調べて行けるのなら。 ● 音楽の教科書について、時代背景や芸術と併せた記載が多くて、実技よりは知識を重視しているのか。
全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校は、大学入試の時に大きく変わるところがある。英語は成績重視だったが、それが総合型選抜、学校の先生方にも、これからは学科試験が取り込まれるというようなこともある程度ある。そうした中で高等学校の教科書に求められるものとしては、課題として、多面的、多角的に取り扱っているもの、つまりバランスの良いもの、というふうな教科書が採択されることをお願いしたいと思う。また、各校にコンセプトがあり、各科等があり、それぞれに育てたい力というものがあると思う。また生徒も色々なニーズを持って学びに来ているというところで、選択科目を多く設置している。そうしたところで、現場の意見を吸い上げる形で、教科書採択を実施していただきたい。 ● 高校の教科書を見て、字ばかりとっていたが、図や写真もふんだんに使われていて、とても見やすい。ただし、教科書が小さめになっており、その分、字も小さく、厚みも出ている。 		

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
特別支援学校等	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援学校では、どの教科書も1年後の成長を見据えて採択しなければいけないので、なかなか難しいのではないか。 ● 教科書で何を育てるかを意識して、教科書が作られている。これが教育の原点ではないか。 ● 星本は絵が主体になっていて、色々な工夫があり、子どもの関心をとぎらせないための工夫が見られる。これに関して国語はいいが、算数はちょっと弱い。ただ、絵に関心を持っていかれても困るという意見もある。 ● 具体的に学校生活に沿った内容が多くてとてもよい。最後に何を育てるかを明確にして教科書を選んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● とてもたくさんの教科書が載っているが、同じ図書でも別の科目で使うと目的等が違う。 ● ひとり一人に合わせた教科用図書を選定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常にシンプルで見やすい。色がはっきりしているので、学びやすそう。 ● 内容については身近なものが多く、生活のイメージが湧きやすい構成となっている。例えば手紙の書き方や、自己紹介の仕方など。 ● 単元自体も長くなりすぎなくてコンパクトである。 ● 9条本が教科書になるということで、わかりやすい。 ● 支援学校の学習の中では、シール等を張りながら学習を進めていくケースがある。教科書の後ろにシールがついていけばよいが、シールでなくても、平仮名等書き込みやすいスペースがあるとよい。 ● 支援学校の活動として、音に合わせて体を動かすリトミックなどがわりと多いが、そういったことに繋がるような教科書があればよい。 ● 主に高等部の生徒になるが、タブレット等を用いて、コミュニケーションをとるケースもあるため、教科書と連動できるとよい。
全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 附則9条本、一般の本屋さん売っているような図書を使う場合に、非常に冊数も多く、新しい本が出てきたり、以前あった本がなくなっていたりする中で、先生方が熱心に書店に足を何度も運んで図書を選んでいく、捜しに行く。これは大変なこと。授業研究や研究会の中でも、附則9条本を使った授業についての成果など、そのような視点の発表自体は今まではあまりないけれど、附則9条本に少し焦点を当てることで、先生方も参考になるのではないか。 ● 全体的には子どもが興味を引くような対応になっているという印象を受けている。支援学校だけでなく、支援学級でも使われていくような対応になっていくようであれしく思う。 		